

きたえあい みんなでとりくむ たいりょくづくり

三次市立君田小学校

児童数 79人

TEL 0824-53-2128

実践内容

実施目的

「50m走」「反復横とび」「立ち幅とび」（脚力に関わる数値）を中心に、全国、広島県の平均値を下回る傾向が続いていた。

その原因は、児童が運動をしたり、体を動かしたりすることが心地良いと十分に感じさせることができていないことや、自分の体力向上（課題克服）を意識しながら運動を継続しようとする態度や意欲を育てていないことにあると捉えた。

そこで、児童に自分の課題、学年の課題、学校全体の課題を意識した取組を年間を通して進め、運動が好きな児童、目標に向かって取り組む児童を育成したいと考えた。

実施内容

1 運動が好きな児童の育成

「体を動かすことが好き、汗をかくことが心地良い、友達と運動することが楽しい」と感じる児童の育成をめざして次の取組を進めた。

(1) ロング屋休憩設定

毎週木曜日にロング屋休憩（35分間）を設定している。月2回は全校レクリエーションやペア学年によるゲーム（鬼ごっこ、けいどろ、ミニサッカー、バスケットボール等）を行い、運動する機会を増やした。これらの遊びを通して運動が好き（体を動かすことが好き）な児童が前年度比25ポイント向上した。

(2) 家庭でできる体力アップ

（親子スポーツ大会・休業中の体力づくり・三点固定）

運動が好きな児童を育成するには、家庭でも親子で体を動かす機会を増やし、体力づくりに取り組むことが大切であると考え、親子スポーツを奨励した。また、休業中に家庭で体力づくりに取り組むことは、健康増進につながることを呼びかけた。さらに、小中一貫教育推進の中で三点固定運動（早寝・早起き・朝ごはん）を展開している。

2 個人目標の設定

児童に昨年度の新体力テストの結果から目標を設定させ、新記録へチャレンジさせた。さらに、今年度の結果をもとに、10月に再度テストを行い、伸びを実感させる取組を行っている。

3 体育科の授業改善

過去2年間の新体力テスト結果から個々の児童の課題、学年の課題、学校全体の課題を分析・共有し、課題克服に向け、授業時間の中で意図的な指導を行った。特に、導入時（授業前半）では、課題種目にかかわる補助的な運動を単元内容と関連付けながら、取り入れた。

実施上で工夫したこと

1 目標設定・カード内容の工夫（可視化）

全国平均値・前年度数値・目標値を記入できるカードを作成した。中学年以上の児童には、そのカードに自分で目標値を記入させることで、目標達成に対する意欲をもたせた。また、それぞれの数値を色分けして記入させた。また、児童が練習時に達成感を感じることができるよう、マラソン・駅伝大会や縄跳び大会などの際には、練習時から自分の設定した目標や練習量などをカードに記入させた。

2 新体力テスト実施にかかわる指導の工夫

第6学年児童をモデルとし、50m走・立ち幅跳び・反復横とびの正しい行い方やコツなどを学ぶことができる時間を設定した。

また、ジャベリックスローなどを活用し、投の運動のコツを体感し、楽しみながら新体力テストに向かう取組を進めた。

3 運動への「憧れ感」の創出

(1) プロスポーツ選手から運動指導を受けるために、JTサンダーズの選手に来校していただき、脚力（走力・跳躍力）の鍛え方、特にトレーニングの仕方について、児童、教職員と一緒に学んだ。

(2) 小中合同運動会、マラソン・駅伝大会では、中学生の力強い演技、運動能力の高さを見る・感じる体験を通して「憧れ感」をもたせた。

4 特色ある体育的行事の設定

縄跳び大会では、個人技と各学年で練習してきた大縄跳びに挑戦する場を設定している。継続して練習することでできるようになったことの喜び（達成感）と力を合わせてがんばることのすばらしさを実感する場となっている。



ロング屋休憩バスケットボール大会

運動の日常化につなげます！



全校縄跳び大会（2月）

運動の日常化につなげます！



JTサンダーズによる運動指導

プロレベルの運動の仕方を学びます！



小中合同運動会（6月）

力感溢れる先輩の走力に憧れます！



親子スポーツ大会（6月）

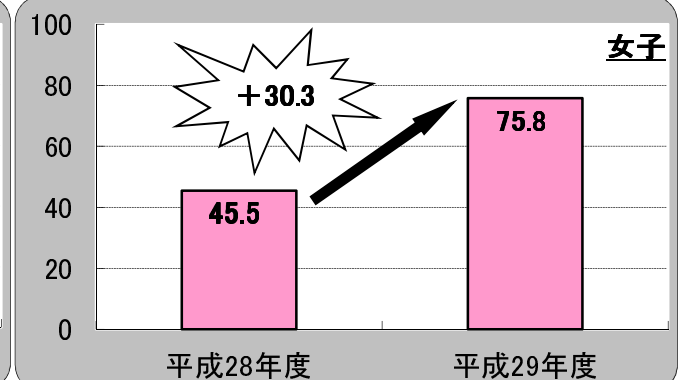
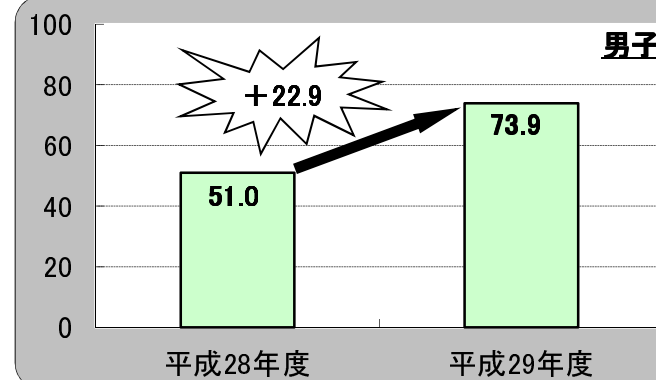
運動の日常化につなげます！



マラソン・駅伝大会（10月）

走力アップに挑戦します！

全校児童における総合評価A Bの割合（%）の推移



主な成果

- 君田小中学校一貫教育推進の中で、各種運動に対する「憧れ感」が次の目標設定・達成への意欲につながっている。
- 児童自ら目標を設定することが、意欲の向上、主体的な運動への取組につながっている。あわせて自己肯定感も向上している。

- キャッチフレーズとキーワードを掲げて指導を行ったことで、「きたえあい」「みんなできりあう」児童の姿が増え、体力向上とともに良好な人間関係を築く力も向上した。